

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平 成 23 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 3 号

平成23年6月1日
岡 山 県

予 報 概 評

| 作 物 名 | 病 害 虫 名 | 発 生 時 期 | 発 生 量 |
|-------|--|--------------------------------|--------------------------------|
| 水 稻 | 葉いもち ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 ニカメイガ | 並 — — — — — | 並 少 並 少 並 並 |
| ジャガイモ | 疫病 | 並 | 並 |
| モ モ | 灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類 | — やや遅 やや遅 — — — | やや少 並 並 並 やや多 少 |
| ブドウ | べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ | やや遅 やや遅 — やや遅 | 並 やや少 やや多 やや少 |
| トマト | 疫病 灰色かび病 葉かび病 | やや遅 — — | やや少 やや多 並 |
| キュウリ | べと病 褐斑病 炭疽病 | — やや遅 やや早 | やや多 並 並 |
| ダイコン | 軟腐病 コナガ | — — | やや多 やや少 |
| 野菜全般 | アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ | — — — | 並 並 並 |
| キ ク | 白さび病 ナミハダニ | — — | 並 並 |

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、気温は発病を助長する要因ではないが、6月下旬に曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 中北部地帯においては、育苗箱施用剤による防除が普及しており、育苗箱施用剤の残効は40～60日とされている。5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果がなくなるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ (第1世代成虫) 少
縞葉枯病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は35頭であり、平年(171.7頭)より少なかった。

イ. 縞葉枯病については、媒介虫であるヒメトビウンカの保毒虫率が6.8%と平成22年までの過去10年間(平成16～20年は欠測)の平均保毒虫率(3.1%)より高いことから、発生量は平年並と考えられる。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ (第1世代成虫) 少
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は5頭であり、平年(49.1頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は近年少発生が続いている。媒介虫であるツマグロヨコバイの発生量は少なく、平年並に少ないと考えられる。

(4) ニカメイガ(越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月1～5半旬まで、赤磐市のフェロモントラップで誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされている。降雨が多い場合は発生の助長要因となるが、高温は抑制要因となる。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病 (早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査によると、芽枯れ、枝病斑の発生量は平年より少ないことから、幼果への感染量も平年より少ないと考えられる。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされている。降雨が多い場合は発生の助長要因となるが、高温は抑制要因となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 5月20日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、全般的に平年よりやや少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平年より多かったため、幼果への感染は平年より多いと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査では、まだ発生を確認していない（同時期における発生圃場率の平年値は9.5%）。

イ. 5月29日の台風2号の接近に伴う強風雨により本病原菌の感染が助長された可能性がある。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、高温で降水量が多い場合には発病を助長する要因となる。

(4) モモハモグリガ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は1頭で平年（42.4頭）より少なかった。

イ. 5月22日の巡回調査における発生圃場率は7.1%で、平年（2.5%）よりやや高かった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、本虫の増殖にやや好適な条件である。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は5頭で平年

(4.4頭)並であった。

イ. 5月24日の巡回調査における心折れの発生圃場率は3.6%で平年(3.1%)並であった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、本虫の増殖にやや好適な条件である。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は6頭で平年(35.8頭)より少ない。

イ. 前年のスギ・ヒノキ花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来数は、チャバネアオカメムシは赤磐市で1頭未満(平年483.7頭)、津山市で21.8頭(平年327.5頭)、クサギカメムシは赤磐市で5頭(平年16.6頭)、津山市で97.5頭(平年198.0頭)であり、ともに平年より少ないと予測される。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや遅く推移している。

イ. 県予察圃場のベリーA(無被覆栽培)において、5月30日まで発生を認めていない(平年:6月4日)。

ウ. 5月20日の巡回調査において、発生を認めなかった。

エ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされている。曇雨天日が多い場合には、発生を助長する要因となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや遅く推移している。

イ. 5月の日照時間は平年より少なく、本病の発生に抑制的な気象条件であった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされている。本病は少雨多照条件で発病が多いとされており、発病をやや抑制する気象条件である。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場のピオーネ(トンネル被覆栽培)における花穂の発病は平年より多く推移している。

イ. ブドウの生育(開花期)は平年よりやや遅く推移している。

ウ. 本年の梅雨入りは、平年(6月7日ごろ)より早い5月26日であった。そのため、梅雨期とブドウの開花時期が重なり、花穂での発病が懸念される。

エ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされている。曇雨天日が多い場合には、発生を助長する要因となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少
予報の根拠

ア. 5月24日の巡回調査における被害発生圃場率は0%で、平年(4.1%)より低かった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、本虫の増殖にやや好適な条件である。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日定植)では、発生を認めていない。

イ. 5月24~25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(1.4%)より低かった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされている。降雨が多い場合は発生の助長要因となるが、高温は抑制要因となる。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日定植)では、発生を認めていない。

イ. 5月24~25日の巡回調査によると、発生圃場率は52.9%で平年(23.4%)より高かった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされている。降雨が多い場合は発生の助長要因となるが、高温は抑制要因となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日定植)では、発生を認めていない。

イ. 5月24~25日の巡回調査によると、発生圃場率は5.9%で平年(29.9%)よりやや低かった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 施設内では、多湿にならないように換気する。

イ. 肥切れすると発病が多くなるので、適切な肥培管理をする。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 5月24~25日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(31.0%)より高

かった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(26.8%)より低かった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 施設内では、多湿にならないように換気する。

イ. 被害葉は初期に除去し、処分する。

ウ. 肥切れや窒素質肥料の過用を避け、適切な肥培管理をする。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査では、発生を認めなかった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は28.6%で平年(0%)より高かった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は3頭で、平年(56.4頭)より少なかった。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は286頭で、平年(377.5頭)よりやや少なかった。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、アブラムシ類及びモザイク病の発生量は平年並であった。

ウ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、特にアブラムシ類の発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は15.0%で平年(31.8%)より低かった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 5月27日の季節予報によると、6月の気温は平年並又は高く、降水量は平年並又は多いとされており、発生を特に助長する要因ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了いたしました。これまで、永きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございました。病虫害発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病虫害防除所ホームページをご利用ください。